

News

修士論文発表会

2月16日(月)に農学研究科生命機能科学専攻応用生命化学講座の修士論文発表会が行われ、本研究室から岩見志歩、大浦圭吾、小田あかね、桑田崇志、小寺裕貴、滝沢彰良、宮崎泰一、横山友紀、Jarukan Lamubol の計9人が発表を行った。昨年度の研究室合併のため M2 の人数がとても多いのが印象的だ。前日にも教室を借りて遅くまで発表練習を行っていたようだが、果たして全員無事に発表を終えることが出来たのであろうか。

【修論タイトル】

岩見志歩

ルチン摂取によるキノンレダクターゼ活性化に関する研究

大浦圭吾

シイタケ由来多糖の経口摂取時における腸管を介した免疫細胞への影響

小田あかね

エピガロカテキンガレートによる GLP-1 分泌に関する研究

桑田崇志

パイナップル果実由来グルコシルセラミドによる小腸を介した皮膚機能改善機構

小寺裕貴

6-メチルスルフィルヘキシルイソチオシアネートとグリセルアルデヒド-3-リン酸脱水素酵素の結合に関する研究

滝沢彰良

摂食刺激による小腸のセロトニン分泌メカニズムの解析

宮崎泰一

SHRSP5/Dmcr ラットにおける非アルコール性脂肪性肝疾患発症に対するクロロゲン酸の抑制効果

横山友紀

抗アレルギー効果を有する食品因子の新規探索法の構築とその作用機序

Jarukan Lamubol

Mechanism of anti-inflammatory properties of *Lactobacillus plantarum* 22A-3 through the intestinal immunity



先行研究を踏まえてセラミドの機能について説明する桑田(M2)。ヌードマウスの背中の写真が生々しい。



研究の成果を図説したスライドでまとめを話す小寺(M2)。発表練習の成果は如何に…?



発表のトリは Jarukan(M2)。8時間にも及ぶ発表会であったため「緊張よりも待ち疲れた」と話していた。



発表を終えた大浦(M2・中央)と滝沢(M2・左)。ひとまず肩の荷が下りたようで安堵の表情を見せた。

ここで発表者を代表して小寺(M2)

M1 からの入学で少し不安があったものの、無事に発表が済んでホッとしています。これまでご指導ご鞭撻いただいた先生方、本当にありがとうございました。

M2 小寺

がコメント。

**M2 の皆さん
修論発表お疲れ様でした！**

編集後記

今年度も残すところあと1か月となり、研究室にも徐々に卒業ムードが漂ってきました。今月はイベントが少なかったですが、来月は卒論発表・追いコン・学位授与式など盛りだくさんですので楽しみに！

嘉正 雄太(M1)